

指東庵

上段の庭の最上部には指東庵がある。西芳寺の創建を記念して 19 世紀末に建てられた。

これは寺の歴史と深い関わりを持つ人々に捧げられた建物であり、この堂の中には行基（668～749）の位牌、夢窓国師（1275～1351）の位牌と像、藤原親秀（西芳寺の再建のために夢窓国師の助けを求めた松尾大社の宮司）とその妻の像が収められている。この夫妻の像の間には、皇族出身の僧侶である眞如法親王（平城天皇（773～824 年）の廃嫡された息子で、出家前の名前は高岳親王）の像が立つ。この親王は熱心な仏教徒で、西芳寺に一時身を寄せていた際に、高名な僧侶で学者でもあった空海（弘法大師、774～835 年）の庇護を受けて出家した。